

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立南多摩中等教育学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 経営企画室長、前期・後期課程教務部主任2名、前期課程副校長 合計4名
- (3) 内部委員の構成
内部委員 校長、前期・後期課程副校長、前期・後期課程教務部主任、後期課程生徒部主任、
後期課程進路部主任、後期FW部主任、3学年主任、6学年主任 合計10名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学・大学院教授)3名、公的機関(図書館館長)、地域小学校長1名、近隣自治会長、
PTA会長 計8名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1~3回)
 - 第1回 令和6年6月14日(金曜) 内部委員10名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、本校の取組について、
各分掌からの報告、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和6年11月22日(金曜) 内部委員10名、協議委員7名
校長挨拶・教育紹介、各分掌からの報告、質疑応答
令和6年度学校評価アンケートの実施について
意見交換、事務連絡
 - 第3回 令和7年2月21日(金曜) 内部委員7名、協議委員6名
校長挨拶、各分掌からの報告
令和6年度学校評価アンケートの結果について
質疑応答・意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月14日(金曜) 紙上開催
評価委員の委嘱、学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 - 第2回 令和6年11月22日(金曜) 内部委員4名、協議委員1名
今年度の学校評価の実施に向けた検討、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討
 - 第3回 令和7年2月21日(金曜) 内部委員3名、協議委員1名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への満足度」「学校の意欲」「学校の実践と成果」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：912人	回収：505人	回収率：55%
・12月	保護者全員	対象：912人	回収：749人	回収率：82%
・12月	地域・住民	対象：63人	回収：63人	回収率：100%
・12月	教職員	対象：60人	回収：46人	回収率：77%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、美化清掃、安全教育、地域奉仕、広報活動、国際理解教育
- (4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)
 1. 南多摩中等教育学校に入学して良かったと感じている。
全ての対象において、90%以上の評価となっている。
 - 2.~4. 授業に関する項目
全てで高評価である。その中で、興味関心に広がりが見れ始める後期生について、個別の状況の把握や対応が求められている。
 5. 各教科の課題量は適切である。
引き続き、生徒に身に付けさせたい力を共有し、適切な課題量について、教科横断的に調整していく。
 6. 学校は、ICTを用いて教育活動(授業・部活動・委員会など)を効果的に行っている。
文部科学省のDXハイスクールに指定され、一人1台端末やTeamsが浸透し、ICTの活用が進んだ一方、多くの情報が発信される状況が生じており、情報リテラシーの醸成や発信内容の精選が必要だ。

7.8. 体罰・いじめ・暴力に関する項目

体罰ゼロを目指し取り組んでいる。教職員対象の研修等を実施し、教師が生徒へ与える影響の大きさを認識し、生徒の健全育成に向け、引き続き誠実に指導を行っていく。また、Teams や保護者コミュニケーションシステム (Classi) を活用し、相談窓口等を案内するなど、未然防止に努めている。

9.10. 基本的な生活習慣、身だしなみ等の項目

比較的ばらつきの見られる項目である。本校は、中等教育学校なので、丁寧に基本的な生活習慣等に係る教育を行っている前期課程から、自主性・主体性を重んじ、自らを成長させられるよう指導を行う後期課程へ移行をスムーズに行っていくために、接続時期に当たる学年での指導が重要である。

11. 学校は、生徒一人一人の心の悩みに適切に対応し、解決に向けて努力している。

自己の確立が進み興味関心が広がっていく成長著しい後期生への対応が求められる。

12. 学校は、生徒の希望を尊重し、データを基にして、進路面接などの適切な進路指導を行っている。

担任による個別の面談や進路部による模試分析などを行っている。そのことを、前期生段階にある生徒・保護者へ情報発信する機会を作っていく。

13. 生徒は、手帳や生活時間調査により、自分の時間管理ができています。

生活時間調査結果を還元している。手帳等を活用し生徒が自律に向け自己管理に取り組めるよう促す。

14. 生徒は、目標を高く持ち、目標を達成するために挑戦しようとしている。

引き続き、進級面談をはじめとする後期への接続に力を入れていく。目標を高く持ち挑戦しようとする生徒が多い環境を踏まえ、周囲との比較で自己評価が低くすることなく、各人の目標や挑戦についても同様に価値づけられるようにしていく。

15. 学校は、日本文化と外国の文化を理解させる取り組みを行っている。

「はじめに」に記したように、今後、デララッカ高校との対面交流が実現していくなど、日本文化と外国の文化を理解する機会が増えていくことになる。引き続き、グローバル人材の育成に資する教育を行っていく。時差のある国との交流については、教職員の業務負担について課題がある。

16.17. 学校行事及び部活動に関する項目

継続して高水準である。本校生徒の満足につながっている。

18. 地域活動の行事に参加したり、地域と交流する機会がある。

授業や部活動等で地域交流はある。評価が伴っていないので、認知を高める必要がある。

19. 生徒は、日頃から読書をしている。

朝読書や図書館を利用した授業が前期課程にある。日常の読書に結び付く取組について検討する。

20. 学校は、ホームページ、進路だより、学年通信等により情報発信を十分行っている。

ホームページで、全生徒の参加する学校行事などを取り入れていく。

21. 学校は、国や都が推進している働き方改革に、十分取り組んでいる。

国と東京都の指標を共有したが、「とてもそう思う」から「まったく思わない」までの割合は昨年とほぼ変わらない。欠員補充の課題も継続している。時間の管理や仕事の量の把握などの減少を目指す。

【地域の方々のアンケートから】

すべての項目で、肯定的な回答を9割以上いただいた。3. 7. について、「わからない」との回答が占めており、広く地域の方に、本校の活動や生徒・教職員を認知していただけるように、本校のことを直に訪問していただいたりHPを閲覧していただいたりする必要がある。本校や我々の存在が、地域の方々の暮らしや安心・安全につながっていることを再認識し、日々の教育活動を行っていく。

【自由記述から】144件

学校・教職員関連で相当数の御意見をいただいた。情報提供等の頻度、授業や教員の生徒への声かけ・関わり方、面談・相談機会に関するものであった。施設関連では、トイレ等施設の老朽化、エアコンに関するものなどがあった。生徒関連では、多忙による健康面等への心配、人的なものを含む環境に関するもの。また、ICT等の活用、SNS利用については、HPによる情報発信、オンライン授業、Teams利用、PC・スマートフォン使用に関する指導に関するものなどがあった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・本校生徒や本校の取組が、大変よいものだと再認識する御意見や御評価をいただいた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・昨年に引き続き、近隣の方からは本校の取組について、「わからない」という回答が複数の項目で見られた。より適正な評価を行うためには、近隣を含め、広く知られる情報発信をする必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) HPなどに、本校の特色的な活動だけでなく、日常的な取組について知れる内容を発信する。